

「更なる高みを目指して ～殻を破れ～」

新年おめでとうございます。平成29年度3学期の、そして2018年のスタートです。本年もよろしくお祈りいたします。

2学期終業式ができなくて残念でしたが、こうして一堂に会して節目を共にし、所属感を共有することは、集団として大事だなと感じます。ただ、形だけでない本当の節目は自分で作るもの。新年の始まりを契機に、何か期するものがありますか？

私は、3月末で定年退職となります。去年4月から、一つ一つの行事など、これで最後かと愛おしさを感じてやってきました。残り3ヶ月どう過ごすか。暮れに吹奏楽部の定期演奏会に行きました。市民会館で立ち見が出るほどの盛況ぶり。若者のエネルギーに溢れたいいステージでした。最後に部長さん達が挨拶しました。その中で胸に残ったのが、「自分達は真摯に練習に取り組んできた」という言葉です。「真摯」とは、真面目でひたむきな様を言います。「久徴精神＝至誠」に似ています。久しぶりに聞いた気がしましたが、そういえば昔、担任をしていた頃、調査書に書く生徒所見の褒め言葉によく使ったのを思い出しました。生徒の言葉に教えられました。残り3ヶ月、自分の職務に改めて真摯に取り組もうというのが、私の年頭所感です。

さて、私は昨年この場で、京都市立堀川高校に「探究科」という学科が新設され「探究学習」を進め、「堀川の奇跡」と呼ばれる飛躍的な進学実績を挙げた話をして、探究学習が生徒の能力をもつて引き出す。本校でも「探究」をキーワードにしたいと話しました。今年も変わりません。本校のSSH・SGHや教科学習で、部活動や学園祭などの行事で「探究」を意識して進めて欲しい。辞書には「物事の真の姿を探って見きわめること」とあります。表面的な理解で終わらず、思考力・判断力・表現力を活かして掘り下げる。これは、今後の大学入試改革で求められる力でもあります。

ところで、京都市には堀川高校に4年遅れて平成15年、京都市立西京高校さいきょうに普通科系の専門学科、未来社会創造学科エンタープライジング学科が開設されました。私は、この西京高校に校長になって2年目の平成25年12月に二日間視察に行きました。京都大学に30人程度進学する中高一貫校です。私は、その二日間で大きな衝撃を受け、これに負けない教育を島根でも行わないと島根の先行きは厳しいという思いにとらわれました。そのときの衝撃が、その後の私の原点になっていると言え、そこで学んだことをどう私の「パクリクツ」にしていくか、が課題となりました。

エンタープライジング学科という名は、エンタープライズ(困難への挑戦、進取の気性ナド)という単語にingを付けて躍動感を持たせた語です。英語力、ワークショップでの対話力、企画力。こういう力を付けることを重視して、入学時に全員がパソコンを購入して授業で使い、いわゆるアクティブラーニングも普通に行われてました。課題研究は企業からミッションを貰って解決策を提案する本格的なものでした。1年生の終わりに全員がアジア諸国に研修旅行に行きますが、生徒が内容のほとんどを企画します。部活動も生徒会行事も盛んです。生徒がすごく活動的で、笑顔で大きな声で挨拶してくれるのも印象的でした。学校案内パンフレットに載ってる生徒の言葉をいいなあと思いました。「めっちゃ たいへん めっちゃ がんばってる だから めっちゃ たのしい」(めっちゃ＝すごく)

君たちは、確かにいそがしく、頑張っていると感じます。しかし、外へ目を転ずるともっと先を行っている学校があります。今の出雲高校で「井の中の蛙」になってはいけません。私は、君たちにはまだまだ開発されていない能力がたくさん潜んでいると信じています。更なる高みを目指して、今一歩、昨日までの自分の殻を破って躍動して欲しい。将来の島根をそして日本を担っていくための力を付けて欲しい。そんな生徒を育てる学校でありたい。これが新年の私の夢です。

夢や希望は、たこ揚げの凧に似ています。凧は高く上げれば上げるほど遠く小さく見えます。夢や希望も壮大で困難であるほど、遠く小さく見えます。しかし、突風や逆風や色んな風に揉まれながらも、糸を放さないで少しずつ手繰り寄せていけば、いつか自分の手に掴むことができます。

3年生の皆さん、今週末のセンター試験を皮切りに受験が本格化します。決して糸を放さず粘って、夢や希望を手繰り寄せて下さい。1,2年生、先ずは壮大で困難とも思えるほどの夢や希望を抱いて下さい。そして、手繰り寄せるための糸はどんな糸なのか考え、真摯に挑戦して下さい。

一年の有終の美となる3学期、そして4月からのスタートに向けて着実な助走となる3学期となるように、一緒に頑張りませう！

※「パクリクツ」は、2学期終業式講話を参照して下さい。